医学部入試の最新動向

Point 1

コロナ禍での医学部入試は医療人としての覚悟が最も重要になる

どんな状況でも必ず医師になるという強い覚悟をもつことで合格の二文字が見えてきます。

富士学院 学院長
坂本 友寛さん

ピーク時から減少し続ける医学部受験者

医学部の受験者数は減少傾向にあります。数年前のピークから年々減少し、国公立に関しては6年連続で志願者数・受験者数が減っています。2020年度の国公立医学部医学科前期日程の志願者は1万4742人で前年度から1648人減り、受験者も1万2138人と1124人減りました。また、後期日程の志願者は7404人で、前年度と比べて1677人減少、受験者は2044人で427人減少しました。これで前期日程、後期日程を含む一般入試の志願者は2015年度以降6年連続で減少したことになります。

私立は併願も可能であり、近年大学も増えていますので、延べの受験者数比率は国公立に比べるとそれほど減少はしていません。とはいえ、私立医学部の2020年度一般入試（センター利用入試含む）の志願者は10万626人で前年度から2282人減り、受験者は9万292人で前年度と比べて2313人減少しています（富士学院調べ）。

受験者数減少の原因は、少子化と18歳人口の減少があり、さらに景気の動向などにより浪人生も減っています。昨年度は2021年度入試から共通テストに変わるということで、安全志向もあり他学部に目標を変えた浪人生が多かったのも原因の一つです。

そういった要因から、医学部合格のハードルは少し低くなっていると思います。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学力があるからというだけで医学部へ行こうと考える学生も少なくなるでしょう。医療現場の過酷な状況を考えると、簡単な気持ちでそこに飛び込もうとは思えません。

現在の受験生には、十分な学習ができる環境にない、先行きが見えず不安であるなど、いろいろなマイナス面があると思います。それらをカバーするのは個人の精神力です。コロナ禍をはじめとする不安材料を、受験生個人がどう受け止めるかが合否にも大きく影響するでしょう。

2021年以降の入試の傾向とコロナ禍の影響

2021年度入試でまず大きく変わるのが、センター試験から共通テストになることです。2020年度の入試で新テストの要素が取り入れられたとはいえ、初めての方式の入試となりますので、受験生にとっては不安でしょう。ただし、共通テストの中心的な話題であった民間英語試験の成績利用は延期、数学と国語の記述式問題出題も先送りになるなど、これまでのセンター試験との大きな違いはなくなりました。とはいえ、英語のリスニングの配点がこれまでの50点から100点に変更され、5教科7科目の平均点の目安が6割から5割になるなど、今まで以上に思考力が問われる問題には注意や対策が必要です。答えだけではなく、思考過程が問われる傾向も見られます。

また、コロナ禍で入試日程にも変化があります。推薦・AO選抜については、一部を除いた多くの大学が、従来どおりの日程で入試を行うようですが、共通テストにおいては第2日程が追加されました。第1日程は本来行われる予定日の2021年1月16日・17日で、第2日程は1月30日・31日となります。さらに、2月13日・14日には特例追試験が行われることが決定しました。

これも、どのような選択をするかによって合否に大きく影響してきます。浪人生は原則第1日程のみですが、現役生は第1・第2日程どちらも選ぶことができます。現役生がどちらを選択するかは、文部科学省いわく本人の意向を確認したうえで最終的に高校が申し込むことになっていますが、多くの進学校では高校単位で申し込むことになるでしょう。

私立大医学部の入試は通常、共通テスト第1日程のすぐあとから始まります。すると、国公立・私立を併願している受験生で第2日程を選択している場合は、私立大学を受験しつつ、共通テストを受験することになってきます。そういった点からか、多くの進学校では現時点で第1日程での受験を考えているようです。そうしなければ、2次試験の勉強にも遅れが出てきます。

大学側にも新型コロナウイルスに罹患した場合の特例措置として、追試験を設定するように文部科学省からの通達がありますが、現時点では未定な部分がまだ多くあります。

学力だけではなく精神力が試される医学部入試

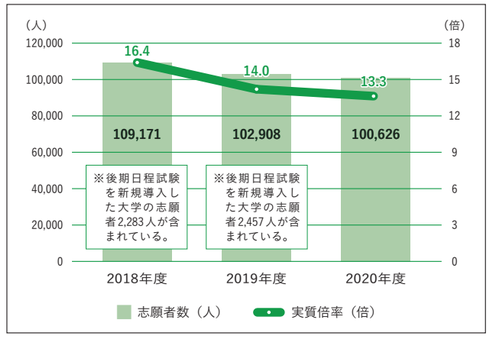
2021年度入試は学力勝負というよりも、精神力勝負であると言えます。

どれだけ周りに振り回されずに勉強や受験に集中できるかという部分で、大きく結果が変わる可能性が強くあります。そういった意味でも、今回の受験は今までにない特異な受験になるでしょう。

このコロナ禍で医療現場は大変な労力と緊張を強いられています。そんな中で医療業界が求める人材像は、医師になり命を救いたい、守りたいという本気の覚悟をもっている人です。面接試験や小論文試験も含め、そのような思いの部分が合否に大きくかかわってくる入試になるでしょう。

Point 1

☞ 私立大学医学部 一般・センター利用入試の志願者数と実質倍率の推移



出典◎富士学院「医学部入試概況」 ※「2020年度入試」は、2020年1～3月実施の入試

Point 4

英語

語彙と文法を早めに固めて確実な基礎力を身につけよう

富士学院 英語科講師 荒木 文範 先生

出題傾向や問題形式が大学ごとに大きく異なる

医学部受験に必要な英語は、学習量が多く、対策に時間がかかります。数学や理科は得意でも、英語の勉強でつまずいて苦労している受験生も少なくありません。大量の学習が必要となるので、苦手科目にならないように毎日の地道な学習を続けることが大切です。

医学部英語の特徴は、各大学の出題傾向や問題形式が大きく異なるという点です。全体的には読解問題重視の傾向ですが、問題量、文法・熟語問題の有無、記述問題の有無、自由英作文の有無など、大学ごとに大きな違いがあります。また、問題の難度もさまざまですが、語彙レベルも含めて全体に難度の高い大学が多く、しっかりとした対策が必要です。

特徴的な出題としては、医学・自然科学系のテーマの読解問題が多く出題されています。「脳」「遺伝」「睡眠」「記憶」「肥満」「がん」などのテーマは頻出です。また、「地球温暖化」「環境破壊」「科学技術」などに関する英文も多く出題されます。ほかに教育、心理、文化など、幅広い内容の英文が出題されるので、日頃からさまざまなテーマについて関心をもち、背景知識を養っておくことが重要です。

学習法としては、まず語彙と文法をしっかり固めることから始めてください。単語集や文法問題集を1冊決めて、早めに学習してしまいましょう。単語や熟語は、最初は必ず声に出して読みながら覚えてください。音声教材が利用できる場合は耳で聞いて同時に音読すると、より効果的です。そして、できるだけ短期間で1巡目の学習をすませ、その後、何度も繰り返して定着させてください。2巡目、3巡目と繰り返す中で、確実な基礎力が身についていきます。読解対策としては、短文を正確に和訳する練習を優先してください。重要構文を中心に、1文ずつ構造を理解しながら日本語に訳す練習をしましょう。

ある程度学習が進んだら、徐々に志望大学の過去問や類題などを使って、実戦的な読解練習を重ねてください。設問を解く際は、何となく雰囲気で解答するのではなく、必ず根拠を押さえて解答することが大切です。記述問題の場合は、可能な限り添削をしてもらうことが有効です。そして、学習した英文は何度も音読して復習しましょう。繰り返し音読することで、英語の語順で理解できるようになり、速読力に加えて、リスニング力やスピーキング力も身につきます。

なお、2021年から始まる大学入学共通テストでは、従来のセンター試験と大きく出題内容が変わり、これまでの筆記試験は読解問題のみとなります。また、リスニング試験でも一部が1回読みになるなどの変更が予想されます。各大学の入試も含めて、今後数年で入試の英語が大きく変わる可能性がありますので、早めの情報収集と分析、そして、対策の実行を心がけてください。

数学

複雑な問題に対応するためにもまずは基礎・基本固めが重要

富士学院　数学科講師　岡﨑 博子 先生

単なる知識やパターンの詰め込みでは対応しきれない

医学部入試の数学といえば、難しい応用問題ばかりが並んでいるイメージがあると思いますが、大学ごとに多少の違いはあるものの、近年の傾向はそうではありません。2021年度入試から始まる大学入学共通テストでは、今年は保留になりましたが、今後は記述が加わります。さらに、例年どおりのマーク形式の部分も、問題文章がはるかに長文化したり、1つの問いに解法を2つ要求してきたりと、単なる知識やパターンの詰め込みだけでは対応しきれないものが増える予定です。一般入試においても、題意は把握できるが、最終的な答えにたどり着くまでに、思考力や判断力、さらには表現力が必要となるものや、融合問題が見られます。

計算力に関しては、速く正確に処理をするための工夫が必要になっているのは、どの試験にも共通しています。今からどんなことを意識しながら学習していけばよいのか、簡単にですがまとめてみました。

応用や、初見に感じられる問題も、実際は基本の組み合わせになっていることがほとんどです。まずは、その基礎・基本固めをしましょう。教科書に載っている問題は、自然に処理できるようになるまで繰り返します。暗記すべきこと（定義等）と、理解することを区別しましょう。定義や数学用語・記号は、使用する際の注意点も含めて正しく覚えます。

また、問題文の中から、直接式に変えることができる言葉を知りましょう。

計算力としては、因数分解や置換、連立方程式の手順を押さえておくと、煩雑な計算にも対応できるようになります。解答が複数あるものは、それぞれの長所・短所や、何を中心に考えているのかといった視点の違いを感じながら学習することがポイントです。

次はアウトプットのための作業です。問題に出てくる言葉でカギとなる言葉を中心に、番号をつけてまとめます。こうすることで、問題と知識を結びつけやすくなります。また、番号を覚えていれば、検討し忘れを防ぐことにもつながります。

実践としては、過去問題にふれ、大学ごとの対策を立てることになります。高校の教科書の中では特に感じることはないでしょうが、実際には小・中学校からの地道な取り組みも力を発揮するので、演習しながら補っていくとよいと思います。問題を解く際に熟考しないまま、解答・解説を見ないようにしましょう。おおよその題意をつかんだら少しずつ式にし、組み合わせていきます。直接が難しいときは、グラフや図を利用することも手です。

とにかく、解答方針の全体像が見えなくても1行ずつ進み、その式を確認してから次の策を考えることです。他人の知恵を借りるばかりの演習では自分の知恵は出せません。最初は忍耐が必要ですが、続けることが大事です。

国語

「国語力を伸ばす生活」を意識することが重要

富士学院 国語・小論文科講師 久保田 克之 先生

語彙力、読解力、表現力は他教科にも影響する

医学部の配点で考えると、国語の占める割合は大きくありません。国語という科目が受験にまったく含まれない大学もあります。しかし、これは国語が医学部受験において重要でないという意味ではありません。

国語の力は、豊富な語彙力、精緻な読解力、多彩な表現力などに分類できます。他科目において、医学部受験者が長い設問の文章を理解できないケースは珍しくありませんが、これは読解力の不足によります。また、表現力がないあまり、小論文において誤解を招く表現を用いてしまい、厳しい評価となることもあります。

国語の弱さが受験の失敗に直結することがあることを認識してください。また、国語は急激に力を伸ばすことが難しい科目です。思い立ったその日から、「国語力を伸ばそう!」という目的意識をもった生活に変化させていくことが大切になります。

では、具体的に「国語力を伸ばす生活」とはどのようなものでしょうか。その話に入る前に、近年の入試の傾向を確認しておきましょう。今年度からセンター試験に代わって共通テストが実施されることとなりますが、文章が複数になったり、図表が付されたりといった傾向については、むしろこれから本格的になるであろうと予測されます。また、文章内容を表現した絵や文章内容についての対話から正しいものを選ぶ問題などは、若干の形式変更はあっても、これからも出題されるでしょう。この共通テストの傾向が意図するものはおそらく至極単純で、「文章をきちんと理解しているか確認したい」ということです。この「理解」とは「頭の中での理解」という意味ではありません。読んだ文章について自分なりに説明をしてみて、その内容が相手にしっかりと伝わらない限りは「理解している」とは言えないのです。しかし、共通テストにおいて記述問題はいったん棚上げされました。だからこそ、出題する側はこれからも手を替え品を替え、文章内容の理解を変則的に問うてくるのだと考えられます。それもこれも、受験者の「アウトプット」力を試したいがためです。

以上のことから、「国語力を伸ばす生活」とは、文章を正しく理解するための語彙力、文法力を身につけるだけでなく、その理解を自分の言葉で説明しようとする姿勢を常にもつ生活だと言えます。それに至る方法として提案しておきたいのは、「単語を辞書的な意味で説明する」練習をすることです。「この言葉はどういう意味か」と自分に問うて自分で答えてもいいですし、友人同士で説明し合ってもよいでしょう。一字一句辞書に合致する必要はありませんし、いきなり完璧にできる必要もありません。頭の中で柔軟に言葉を引っ張り出して組み合わせる訓練をしていく中で、総合的な国語力は磨かれていくでしょう。

化学

化学を根本的に理解して応用する能力が試される

富士学院 化学科講師 河合 剛志 先生

共通テストでは問題形式が大きく変わる

医学部入試では、ほとんどの大学で理科2科目の受験が要求されます。そのとき、受験生は「化学と物理」または「化学と生物」のいずれかを選択し、「生物と物理」の選択をする受験生はほとんどいません。ゆえに、化学は英語や数学などと同じように受験必須科目であり、勉強を怠ることができない重要科目であると言えます。

2021年度入試から新たに導入される大学入学共通テストに先立って、試行テストが2回実施されました。それらの試行テストの化学の問題は、従来の「センター試験」とは出題傾向が大きく変わっており、見慣れない文章を解釈して化学の知識を応用するような問題や、データを自分自身でグラフ化して考える問題、複数の解答が求められる問題、答えというよりも思考の過程を問われている問題などが出題されています。過去の入試問題をひたすら解き、解き方のパターンを覚え込むといったような、これまで多くの学生が行ってきた勉強方法では、おそらく高得点を取ることは難しいでしょう。学生自身の勉強の質の改革が求められていると言えます。

医学部独特の入試問題への対応能力を地道に養おう

ただし、医学部入試においては、この共通テストのような出題傾向が以前からずっと続いており、化学に関する深い知識を問う問題はもちろんのこと、化学を根本的に理解して応用していく能力が試される問題が多く出題されてきました。大学は筆記試験を通して、医師をめざす者に必要な資質である暗記力・思考力・判断力を見ているのでしょう。ゆえに、医学部入試の化学で合格点を取るためには、直前だけの対策では不十分であり、長期的な計画のもと、医学部独特の入試問題への対応能力をコツコツ養っていく必要があります。

答えを自分の頭で考えて導き出すように心がけよう

化学を勉強するうえで最も大切なのは、自然のさまざまな現象に興味をもち、学習内容を自分の体験に照らし合わせて考え、理解していく姿勢です。なぜ冷凍庫の氷は時間が経過すると角が丸くなっていくのか、なぜ炭酸飲料のふたを開けると気泡が現れるのかなど、身近な現象を説明できるようにしましょう。中学生になると、化学変化や化学反応式について学びますが、化学反応というものを、原子や分子という粒子を常にイメージして考えるようにしましょう。そうすることで、化学の素養が身につきます。高校の学習では、「化学基礎」の深い理解が非常に重要です。教科書をまずしっかり読み、問題集の解説などには頼らず、問題の答えを自分の頭で考えて導き出すように心がけましょう。

Point 4 教科・科目別の効果的な勉強法

物理

暗記によらない理解中心の学習（知識の導入＋問題演習）が必須

富士学院 物理科講師 小林 洋二 先生

新しい傾向の問題に対応するための勉強も必要

物理は、化学や生物に比べて暗記量が少なく入試で高得点を狙える一方、誤った学習方法が定着しやすい科目と言えます。

学習する各単元では定義や法則が数式で表されます。これら数式の量は決して多くはないので、意味や導出過程を理解していなくても暗記してしまえば、易しい問題には対応できます。しかし、この学習方法を続けると、「なぜそうなるのだろう」という好奇心が生まれず、加えて、計算結果から「この先こうなるはず」という予想が的中したときの楽しさを味わうこともできません。徐々に物理への苦手意識が拡大し、医学部合格に必要な学力を得ることは望めなくなります。

では、正しい学習方法とはどんなものかを見ていきましょう。教科書の単元を新しく学習するとき、二つの要素「知識の導入」「問題演習」が必須となります。前者として教科書を読むことなどがあり、後者として教科書傍用の問題集（問題文が短く難度は易しい～標準、教科書の単元に準じた問題配列がなされている）を解くことなどがあります。学習時の注意点として、教科書を読むとき、完璧に理解できていなくても問題演習に移ってよいこと、また、問題演習では全然わからないときは解説を読んでよいことがあります。各単元の知識の細部は問題演習を通して得られることが少なくありませんし、手がつけられない問題を長々と考えるのは時間の無駄です。あとは「知識の導入」「問題演習」を反復することで理解をより深めることができます。この方法で既習の範囲を広げたあと、入試問題集や受験予定大学の過去問で演習を進めることになります。

近年の入試問題の傾向に関してですが、文科省による新しい学習指導要領（思考力・判断力・表現力を重視）の影響を少なからず受けています。そのため、典型問題ではない出題や実験考察に関する出題が増えました。多くの受験生が見たことのない題材なので、内容を説明するための問題文が長くなる傾向にあり、その文章を短時間で正確に読み、自分が学習したどの知識が使えるのかを判断しなければなりません。これら新傾向の問題に対応するには、教科書の実験考察の部分を丁寧に読み、この数年で出題された新傾向の問題を解いておくとよいでしょう。さらに、単科医大（国公立・私立いずれも）では独自色のある出題をすることが多いので、受験大学の過去問を解かずに入試に臨むのは大きなハンディを負うことになります。

また、2021年から始まる共通テストでも試行テストから判断して同様の傾向が予想されます。従来のセンター試験と比べて選択肢の形式の一部変更や選択問題の廃止（試験範囲の拡大）という相違点はありますが、センター試験の過去問を解くことは効果的な対策になります。

生物

教科書の内容をしっかり掘り下げて考える習慣が必要

富士学院 生物科講師 近藤 秀樹 先生

共通テストも含め実験考察問題が増加傾向にある

日頃から生徒を間近で見ていると、生物の成績が伸び悩む生徒には共通した考え方があるように思います。それは「生物の学習は知識の習得こそが重要で、生物用語をしっかり覚えていけば合格レベルに達する」という考え方です。実際、高校2年生までならば、生物用語や基本的なしくみを理解できていれば、模試でもまずまずの点を取ることができます。ところが、高3になり、全国模試を受けてみると、思いのほか実験考察問題の割合が大きいことに気づかされます。特に、2021年から始まる共通テストを意識した模試の場合、この傾向はより顕著で、単純な知識を問うような問題はほとんどなく、実験考察問題ばかりです。さらに、選択肢にある正解は1つとは限りません。適切な選択肢を複数選ぶ場合もあります。このように、実験考察問題を解く力を養成することは受験において非常に重要と言えます。

そのため多くの生徒は、さまざまな参考書や問題集に手を出してしまいがちになります。中には、ハイレベルな考察や論述を含む問題集に挑戦する生徒もいます。ハイレベルな問題集に書いてあるポイントを正確に理解し、自分のものにできればよいのですが、解説のポイントがつかめず、解説の中身をそのまま覚えてしまおうとする生徒もいます。このような勉強法を続けていると、間違いなく成績は下降していきます。

正しい考察力を磨くには、まずは教科書に書かれてあるしくみや実験を正確に理解し、そこにはどのような生物学的な意義が存在するかといったところまで踏み込んで考える習慣を身につけることが大切です。実際の入試問題を見てみると、教科書の太字の前後にある文章がそのまま解答になっている問題や、その文章と同じ内容の選択肢を選ばせる問題などは非常によく出題されています。

大学ごとに出題傾向は異なるが勉強法は一つ

医学部受験の場合、大学ごとに出題傾向が大きく異なります。例えば、理学部や工学部など、他学部と同じ問題を出題する国公立総合大学の場合、問題のほとんどは標準的な問題である傾向が強く、医学部志望者は高得点の争いになります。この場合、標準的な問題をミスなく正確に解く力が必要になります。一方、国公立医学部単科大学や私立医学部の場合、大学ごとに出題傾向が大きく異なり、かなり難易度の高い問題が含まれることもよくあります。

ただし、どのようなタイプの大学を受験するにしても、根本的な学習法は変わりません。やはり、教科書に書かれている内容をしっかり掘り下げて考える習慣を身につけることです。そうすれば、必ず合格を勝ち取るだけの学力が得られると思います。頑張ってください！

小論文

添削を受けてミスを確認し、自分の弱点を克服していこう

富士学院 国語・小論文科講師 北村 曉 先生

医学部受験において小論文は重要度が高い

医学部入試における2次試験の重要性は非常に高いものになっています。受験後に得点開示請求をしてみると、総得点が合格最低点を超えているにもかかわらず、面接や小論文の評価が低いために不合格になっていた、ということもあるようです。

医学部入試が受験生の学力と人物像の両面を見ようとするものである以上、これは当然のことです。したがって、医学部をめざす皆さんは、学力試験対策と並行して面接・小論文などの対策も行っていかなければならないのです。

適切な表現や段落分けで文章を書く練習が必要

では、小論文の学習はどのように進めていけばよいのでしょうか。

小論文は与えられた課題に対して自分の考えを述べるものです。したがって、課題を正確に把握することが重要になります。課題に正確に対応した考えを論じることを通じて、「人の話を理解する力があること」「その話について真剣に考えることができること」「そうして導き出した自分の考えを相手にわかりやすく伝える力があること」を示すことが求められているのです。

このような力をつけていくには、まず、文章を正確に理解していく訓練が必要になります。国語の時間で学習する文章や新聞記事などを段落ごとに整理して、「何（テーマ）がどのような背景（根拠）でどうなったのか（結果・結論）」ということを把握する練習を積み重ねていきましょう。

同時にまた、小論文が読んでもらうものであることを意識し、適切な表現や段落分けで文章を書く練習を積み重ねていくとよいでしょう。特に結論、根拠の種類に応じた段落分けには注意したいところです。

考察については、与えられた課題の中に問題点を見つけ、それをどのように解決していけば人のためになるのかを考えるようにしましょう。困っている人に寄り添う意識で考えていくとよいでしょう。また、そのように言えるのはなぜかという根拠をしっかりと考えることも重要です。なぜそう言えるのかをどんどん掘り下げて考えていくようにしましょう。

このようにして考えたことの順序を整理し、適切な表現、適切な構成で記していくと、説得力のある論文を仕上げることができます。ただ、最初からこのプロセスのすべてがうまくいくはずはありません。添削を受け、どこにミスが出ているのかを確認し、そうして、自分の弱点を克服していきましょう。

一度にたくさんのことを行う必要はありません。受験までのスケジュールを考えて定期的な学習を積み重ねていけばよいので、じっくりと取り組んでいくようにしてください。

保護者体験記

本当に富士学院には感謝してもしきれません

Y・Y様（お母様）香川大学医学部医学科一般前期日程合格

富士学院との出会いは、現役の時にある私立大学医学部を受験した際に、偶然保護者控室で知人にお会いしたことです。息子に十分な学力がついていないことをぽやくと、知人はもし浪人した場合には、富士学院がお薦めよ、と言ってくれたのです。知人のお嬢様は、富士学院の岡山校で勉強され、無事合格を果たされました。息子は現役時代には残念ながら一校も合格することができず、浪人が決まりました。

私は普段、大学病院で医学生を教育しています。医学部の6年間は学ぶべき学習事項が増加しており、知識だけではなくコミュニケーション能力や自己学習能力など身につけるべきことが膨大で、入学後の方が大変であることを実感しています。現役時代の息子は自分で勉強する習慣もなく、坂本学院長の著書を拝読して、富士学院であれば医学部入学のみならず、生涯必要な自己学習能力が身につけられる、と確信しました。

私の実家近くに大阪校が丁度開校したのも、富士学院に決めた理由の一つです。校舎も寮も新しく、非常に恵まれたアメニティで学ぶことができました。素晴らしいのは設備だけではなく、なんと言っても講師の先生方です。息子に合わせて得意科目は更に伸ばし、苦手科目は克服すべく先生方のチームワークで指導して下さりました。夏には「勉強が楽しい」と息子からは今まで聞いたことが無いような発言もあり、耳を疑ってしまいました。伸び悩んだ時期もあったようですが、成績も順調に上がりました。志望校決定も息子の成績や試験問題の相性だけではなく、性格、体力なども考慮してアドバイスして下さり、100%信頼して先生方にお任せでした。第一希望だけではなく私立大学も3校正規合格、1校補欠合格と1年前には考えられなかったような結果を得られました。本当に富士学院には、感謝してもしきれません。知り合いから予備校の相談をされた時には富士学院を必ずお勧めしています。

富士学院でのゴールを迎えたおかげでようやく人生のスタートラインに立たせて頂きました

K・S様（お父様）福島県立医科大学一般前期合格

合格発表の翌日。富士学院にお伺いして、握手をした校舎長の温かい右手のぬくもりと、潤んだ瞳の奥にある心の底からの喜びを見た瞬間にようやく終わったんだと実感しました。その時校舎長をはじめとして周りに居た先生方の喜んで頂いている姿を見た瞬間、なぜ難関の国公立医学部に合格出来たのかも改めて知った気がします。ここの学校は予備校の枠を超え家族のように親身に指導して頂き、親身に相談にのって頂き、苦しみも喜びも共に分かち合って頂けるような場所なのです。

うちの娘が医師を志したのが高校三年生の秋頃でした。その年私が命を失いかけるような大病をし、幼い従妹が他界してしまった時に何度も病院での医師の働きを目の当たりにした事がきっかけだったのかと思います。しかしすでに高三の秋。医師を目指すにはあまりにも遅く浪人覚悟でスタートしました。

浪人一年目はなんとなく大手予備校に入学して、大勢の中の一人として通っていましたが成果が上がらず二年目へ。その時本人がこのままではいけないと感じたのか、自分の足で予備校巡りをして、自分の強い意志で富士学院への入学を決めてきました。結果富士学院にお世話になって一年で私立の医大に合格。国公立を目指していた本人の希望もあって更にもう一年。入学から二年目で無事にゴールを迎えました。

この学校で入学の時から合格までの間娘から色々な話を聞き、何度も先生方にお会いしていつも感じていたのが、先にもお話した親身になって指導して頂けているという実感。これが娘のモチベーションを持続させ、程よいプレッシャーとリラックス、そして学力を伸ばして頂き自信を与えてくれたのかと思います。先生方には感謝しかございません。娘の夢への手助けをして頂き本当にありがとうございました。富士学院でのゴールを迎えたおかげでようやく人生のスタートラインに立たせて頂きました。

これからの道の方が遥かに険しいとは思いますが、この学校で学んだことを振り返りながら歩んで行って欲しいと思います。

My dream has come true

H・T様（お父様）帝京大学医学部医学科一般入試合格

入学以来部活動に明け暮れ、成績が低迷していた高校3年生の春に、息子と一つ約束したことを覚えています。それは、「医学部を目指すのであれば部活動を続けても良い。医学部以外に行くのであれば、部活動をやめて勉強しなさい。」一見矛盾しているように思われるかもしれませんが、両親ともに1年間の浪人を経験しており、高校生活や、浪人生活で得るものの大切さを十分に理解しており、医学部であれば浪人を前提として高校生活を満喫してほしかったからであります。高校3年生の10月から始めた受験勉強で到底医学部に合格するはずもなく、昨年の2月には浪人生活が始まりました。

私たちの時代には医学部専門の予備校などはなく、私は大手の予備校に通っておりました。私自身が当時感じたことは、答え合わせをすると理解できますが、新たな問題に直面するとなかなか解答が導き出せない事が多く、結局分かった気になっているだけで、実際には難問を解く実力がついていなかったのだと感じました。息子の性格や成績を考えた時に、数百人で行う講義を熱心に聞いて成績を鰻登りにアップさせることは到底無理だろうと考え、少人数制で医学部受験専門予備校である富士学院にお世話になる事としました。

息子は、朝6時に家を出て、毎晩11時に帰宅する生活を1年間よく続けてくれました。両親ともに医師である、その重圧に耐えて勉強し続けた態度には、我が子ながら心から賞賛し、また尊敬します。私には夢があります。息子の小学校の卒業アルバムで「父のような医師になりたい」と書いてあるのを見た時から、いつか医学部に入学し、成人となった息子と酌を交わすことです。

どん底の成績から帝京大学医学部への正規合格に導いてくださった富士学院の先生の皆様、また3食の食事を休みなく提供していただいたスタッフの皆様、さらに1年間切磋琢磨し成長させてくれた仲間の皆様に心から感謝申し上げます。

富士学院で学べた1年は娘にとってこれから医師になるうえでの貴重な経験となりました

A・T様（お母様）藤田医科大学一般入試合格

富士学院との出会いは、娘が初めて挑んだ私立医科大学の受験会場でした。ご自分の予備校の生徒一人ひとりに対する対応がとてもすばらしく印象的でした。

娘の浪人が決まり、最初は大手予備校を考えておりましたが、事務的な空気感が娘には合わないのではと思い、なかなか決断できませんでした。その時、娘が自分で資料を取り寄せて調べ、「私は富士学院で学びたい」と娘が私に伝えてきました。自分で決めた予備校、1年間だけと決めた浪人生活、娘の決意は固く素晴らしかったです。

富士学院で「一緒に頑張りましょう」と娘に声をかけて下さった時に、とても温かみのある心からの言葉に胸が熱くなり、最初の出会いを思い出し富士学院なら娘を預けて絶対大丈夫と、「合格する」と私はなぜか確信しました。

娘が合格できたのも、どんな医師を目指したいのか悩んでいる娘を見抜き真剣に話を聞いてくださった校舎長、絶対に最後まで諦めない勇気と希望を持たせ続けてくださった担任の先生、娘の弱点を見つけて理解するまで丁寧にご指導くださった先生方、メンタル面でくじけそうになった時に支えてくださった教務の方々、栄養を考えた食事を提供してくださった食堂の方々、人生経験豊富な先輩方、学習面、生活面、精神面等全てで娘を支えてくださった富士学院ワンチームでの結果だと思います。

娘は富士学院で学ぶことの楽しさ、理解できた時の喜びそして努力は裏切らないことを教えてもらったと言っておりました。医学部受験の厳しさを知らされ、「去年の自分は甘かったな」とは言いましたが、弱音を吐くことはなかったです。富士学院ならこうした素晴らしい環境の中で充実した日々が送れて子供は成長し合格に導いてくれると思います。

小学生の頃から娘の夢は医師でした。その思いが叶う第一歩を富士学院がスタートさせてくれました。富士学院で学べた1年は娘にとってこれから医師になるうえでの貴重な経験となりました。きっと大きな宝となることでしょう。

医学部合格に導いて頂いた富士学院の皆様には心より感謝申し上げます。

■AD お問い合わせ 富士学院各校舎 https://www.fujigakuin.jp/